

6月議会での もはら の一般質問

提案型の一般質問で市民のための市政実現を！

『小中学校図書館の蔵書数の現状について』



もはらの質問

子どもたちの国語力を向上させるために、文部科学省では小中学校図書館の整備を現在進めています。

具体的には『学校図書館図書整備5ヵ年計画』をつくり、特別な予算を設けることで、平成14年度から18年度までの間に学校の規模に応じて定められた蔵書数(学校図書館図書標準)の達成を促しています。しかしながら、今年度がこの計画の最終年度にもかかわらず、市内の小中学校の中に、図書館の整備が進んでいない学校があるようです。どのような現状なのでしょうか。



市長答弁

平成16年度末現在で、文部省の定めた蔵書数に対しての達成率は以下の通りである。

市内小学校11校中 100%以上の達成率は8校、90%以上は1校、80%以上は2校

市内中学校6校中 100%以上の達成率は1校、90%以上は1校、60%以上は2校、50%以上は2校

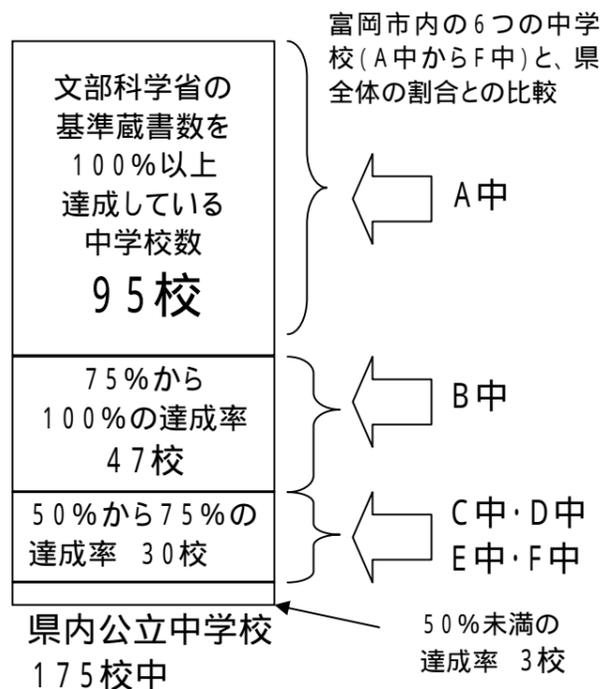
もはらの結論

私が調査したデータによれば、現在群馬県内に公立中学校は175校あり、その中で達成率が50%未満はわずか3校、75%未満の中学校も33校しかありません。

つまり富岡市内の中学校の $\frac{2}{3}$ は、県内の達成率下位2割の範囲に入っており、さらに2校については、県内175校の中でも整備状況のワースト10に入っている可能性があるほど、富岡市内の中学校図書館は蔵書数が少ないのです。

私は「全ての学力の基礎は国語力にあり、国語力を向上する最も効果的な方法は読書である」と考えています。最近子どもたちの学力低下が盛んに議論されていますが、子どもたちに読書ができる環境を整えてあげることが、学力向上の一法と思います。しかしながら現在の富岡市内の中学生は、このデータが示すように、決して恵まれた環境にありません。また、義務教育の、しかも教育の根幹をなすような重要な部分で、自治体や学校の間大きな格差が生まれている現状は好ましいことではありません。

今回の一般質問では、具体的なデータを使って、市内に蔵書の整備がたいへん遅れている学校があることを示した上、それらの学校については早急な整備をするよう当局に要望いたしました。保護者のみなさんもPTAの会議やクラスの懇談会などで蔵書の整備を学校にお願いしていただきたいと思います。



みなさまから頂きましたご意見・ご質問コーナー



どうぞお気軽にご意見ください！メールには必ずご返事いたします！

頂いた行政へのご意見は、必ず担当部署に伝え、ご返事させていただきます。また重要なご意見は一般質問で取り上げます！

Q:富岡製糸場を今後管理していくには、莫大なお金がかかると聞きましたが、補修工事にはどの程度の費用がかかるのでしょうか。また、そうした工事には補助金は出るのでしょうか？

もはら

製糸場の敷地一帯が昨年7月に国史跡に指定された後、本年7月には建造物11件も国重要文化財の指定を受けました。

現在のところでは、まだどの程度の補修を行うかが決定しておりませんので、具体的な費用は未定の状況です。また、補助金については、自治体所有の文化財ですので、国が補修費の50%、県が25%以内を負担し、残りを富岡市が支払うこととなります。

Q:学校の校舎や体育館などは、かなり老朽化が進んだ施設が多いように感じますが、順番に新しく建て替えを進めていく長期計画はあるのでしょうか？

もはら

文部科学省が定めた立替基準は50年を一つの目安としていますが、市内の学校においても、この50年に近づいてきた校舎や体育館が増えています。本来なら、もっと早い時期に建て直すべきなのですが、予算面での工面がつかず、先送りされているのが実情です。総合的な建て替えの長期計画は残念ながらまだないようです。

Q:富岡市が特別養護老人ホームを建設するそうですが、市が運営すれば、富岡市民が優先的に入れるのでしょうか？

もはら

市民の優先的な入所は行なわれないと聞いています。

Q:高瀬小学校や小野小学校では、学校の敷地内にある建物で学童保育が行われているとのことですが、他の小学校でも今後同様な学童保育が開始される予定はあるのでしょうか？

もはら

昨年4月から高瀬小学校で、また今年の4月から小野小学校で学童クラブが始まりました。今後はアンケート調査を行ない、どのくらいの希望者がいるかを確認した上、既存の学童保育施設とのバランスを考慮しながら、必要性の高い地域から設置されることになると思います。

Q:石綿セメント管というアスベストが使われている水道管が富岡市にもまだあるそうですが、健康上問題はないのでしょうか？

もはら

市の担当部署に確認したところ、石綿セメント管を通った水道水でも、健康上の問題点はないとのこと。ただ耐用年数が短く、強度が低く災害に弱いため、全国的に管の交換が進められています。平成17年度末現在で、市内には約25kmの石綿セメント管がありますが、今後5年ほどで交換工事は終了する見込みです。

Q:建設が計画されている下仁田町の産廃処分場はどの程度の規模かよく分からないのですが？

もはら

東京ドーム(建築面積46,755㎡、容積約1,240,000㎡)と比較しますと、処分場の開発面積(199,839㎡)は東京ドームの約4.2倍、埋立面積(76,602㎡)は約1.6倍です。また処分場で埋め立てる予定の産廃容量(1,921,970㎡)は約1.54倍ですので、東京ドーム1つ半ほどの産廃を埋める処分場ということになります。

*データは産廃阻止有志会の資料によるものです